

<2020年度 オリンピック・ムーブメント事業>

オリンピック教室

実施報告書

神奈川県 愛川町立愛川中原中学校

Olympic
Movement



公益財団法人日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「オリンピック・ムーブメント事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和2年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 実施目的** : オリンピアン(オリンピック出場経験アスリート)が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことのできるものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン(オリンピック出場経験アスリート)
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 2020年9月～2021年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 50校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目
運動の時間(50分)



2コマ目
座学の時間(50分)



※学校の通常の授業時間に実施

※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

1コマ目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」
等を伝える



個人またはグループワーク
で話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって変動する場合があります

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間・座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

実 施 内 容

■期 日 : 2020年9月17日(木)

■ク ラ ス : 2年1組(35名)、2年2組(34名)

■オリンピアン : 小塚 崇彦 先生(スケート/フィギュアスケート)【出場オリンピック/バンクーバー大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (1時限、3時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



・自己紹介の後、オリンピックバリューについて説明し、運動の時間では説明するルールをよく理解するように伝え、準備運動に移る。

2. 準備体操



3. 主運動



・新聞じゃんけんバランス
・ボール渡しリレー (全2回)
1チーム12人の3チーム対戦とし、生徒間は約2m以上の間隔をあけて並び、ボールをパスし、12人でボールを繋ぐ。



4. まとめ



・運動の時間を振り返り、作戦を立てるということは、「エクセレンス」に繋がる。さらに、皆で相談をするということは、「フレンドシップ」や「リスペクト」に繋がる。詳しくは次の座学の時間で考えていこうと伝え、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



・運動の時間を振り返り、ルールを理解したからこそチームが勝てるというチームワークを考えることもオリンピックバリューにつながると話す。
 ・オリンピックシンボルの意味やピエール・ド・クーベルタンについて、スポーツを通じてより良い世界を作ることを目指して、近代オリンピックの開催を呼び掛けたと説明。

3. グループワーク



発問：体育大会の全員リレーでオリンピックバリューをどのように活かせるか考えてみよう。
 発表：エクセレンス「練習を重ねて、前の記録を超えられるようにする」「バトンパスのミスをして諦めない」等
 フレンドシップ「どう走ったらうまくか皆で話し合う」「声援を送る」等
 リスペクト「大会を準備してくれた人に感謝する」「リレーのルールを守り全力で楽しむ」等

4. まとめ



・運動の時間にパスを失敗して、記録外になってしまったチームもあったが、それでも最後まで諦めずに頑張ってくれた。もし体育大会で失敗しても、最後まで諦めない気持ちや仲間を応援する気持ちを忘れないでほしい。オリンピックはメダルを獲得することだけが目的ではない。勝つために努力し、仲間と支え合い、ルールを守って取り組む過程が大切であり、そのような行動がメダルにつながれば、それは素晴らしいことである。オリンピック教室で考えたことや感じたことを体育大会につなげていってほしいと話し、授業終了。

実施内容

■期 日 : 2020年9月18日(金)

■ク ラ ス : 2年3組(34名)

■オリンピアン : 小菅 寧子 先生(セーリング)【出場オリンピック/北京大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (1時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介の後、競技(セーリング、ウインドサーフィン)を知っているかを生徒に尋ねる。
- ・運動の時間にオリンピックバリュー(オリンピックの価値)を体感してもらいたいと伝え、準備運動に移る。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・三目並べリレー (全6回戦) を実施。
2班ずつの対抗戦とし、スタートラインから約5m先に3×3=9マスの輪を設置した。



4. まとめ



- ・三目並べでは勝ち負けがしたが、オリンピックバリューで大切なことは「全力で頑張ること」「皆で協力すること」「ルールを守ること」であり、ルールに関して皆頑張り過ぎて少し意識が薄くなっていたかもしれない。運動の時間ではそういうことを体感しながら学ぶ時間になったと思う。次の座学の時間ではさらに詳しくオリンピックバリューについて説明するので、この時間に体感したことを覚えておいてほしいと伝え、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（2時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



・セーリング競技の種目やルール、特徴を説明。自身の経験を踏まえて、オリンピックバリューについて話したいと授業の目的を確認し、近代オリンピックの開催やオリンピックバリューについて、またオリンピックシンボルには「世界平和」や「皆がひとつになる」という意味が込められており、東京オリンピックもそのような理念に基づき開催を目指していると伝えた。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



発問：体育大会に向けてどのようなことを意識して取り込むか、オリンピックバリューに当てはめて考えよう。

発表：エクセレンス「全力を出して最後までやる」「リレーで遅れても一生懸命走る」等
フレンドシップ「協力して1位を目指す」「自分のことだけではなく仲間のことも考える」等
リスペクト「負けても相手の勝利を認める」「人のせいにならない」等

4. まとめ



・オリンピックは遠い存在であり、テレビの中の出来事だと思っていた人もいるかもしれないが、オリンピックバリューは皆の日常生活の中にも見出せる。好きなことや将来就きたい職業等があると思うが、夢の実現に向けて頑張るためにも、オリンピックバリューを忘れずにいてほしい。ルールを守ることや、支えてくれる家族や友達、先生に対して感謝することも忘れないようにしてほしい。今は成長期であり、食事や健康という面でも大事な時期である。何をどのくらい食べるかを自覚し、健康的な食習慣を作ることで、大人になってからの体の作りが変わってくる。本日の給食は食育の日という記載を見た。今日からしっかり食べるようにしてほしいと伝え、授業終了。

■ 集合写真

2年2組



■ 記念品贈呈

2年2組



■ 修了証贈呈

